

平成26年度学校評価

大項目	中項目	小項目と具体的方策	教師	保護者	生徒	成果と課題	改善点			
確かな学力体力	学習規律の確立	①チャイムが鳴ったら席に着き、落ち着いて授業にのぞむ。	前期	3.0	3.2	○教師が早めに教室に行くことや、委員会の呼びかけによって、ある程度、落ち着いた環境づくりをすることができた。	◎生徒会活動を活用し、委員による呼びかけをよりいっそう活発にさせる。			
			後期					3.0	3.2	
		②『西中学びのルール10』を授業やHR等で意識させ、定着率を10ポイント上げる。	前期	2.2	3.3			3.1	●学びのルール10が形骸化されつつある。	◎生徒会の取り組みと連動したり、項目をしぼり重点化するなどの工夫が必要である。
			後期	2.2	3.3			3.1		
	授業の創造・工夫	①「めあて」と「まとめ」のある授業を行う。	前期	2.7	2.8	3.3	●毎時間、きちんとすることが全体には定着できていない。	◎『わかる授業の創造』のために、教師の意識改革が必要である。		
			後期	2.8		3.4				
		②授業力の向上のための具体的な方策として、（学習の仕方の指導・学習指導の工夫・教材・教具の開発等）を図る。	前期	2.6	3.2	3.3	○興味・関心を高め、基礎・基本を定着させる授業ができた。 ●学習の仕方の指導が不十分であった。	◎よりいっそうの教材・教具の開発をはかる。		
			後期	2.8	3.2	3.3				
		③コミュニケーションの場の設定工夫（挙手・発問の工夫、小集団の活用）を行い、生徒の『活用する力』の向上を図る。	前期	2.7	2.7	3.3	○『活用の場』を設定し、活用力の向上を図ることができた。 ●重点単元を設定するなど、内容の精選が必要であった。	◎単元の中に計画的に『活用の場』を設定し、意図的・計画的に指導する。 ◎定期考査の問題に『活用問題』を取り入れる。		
			後期	2.7		3.3				
		校内研修の充実	①年間計画を明確にし、年間の見直しをもって研修を行う。	前期	2.9	2.8	3.3	○年間計画に沿って、研修を行うことができた。特に、全員が授業公開をすることができた。	◎研究の二年次を迎えるので、三年次を見通した計画を作成する。	
				後期	2.8					3.4
	②授業改善の視点に基づいた校内研修の充実を図る。		前期	3.0	2.9	3.3	○定例の校内研修会で提案をすることができた。 ●職員会議後に研修会をすることが多く、十分に話し合うことができなかった。	◎各教科で十分に話し合い、よりよい授業授業実践を行えるようにする。		
			後期	2.9					3.4	
③学力向上プランのPDCAサイクルによる活用について、教科内での情報交換及び連携を図る。	前期		2.4	2.5	3.3	●学力向上プランの周知徹底がいまひとつであった。 ●教科で集まって話し合う時間が十分にはとれなかった。	◎学力向上プランを周知徹底し、PDCAサイクルによる見直しを図る。			
	後期		2.5					3.4		
④生徒による授業評価等の分析をふまえた、授業改善を行う。	前期		2.6	2.7	3.3	○各教科で工夫した授業評価をし、授業改善につなげることができた。	◎よりよい評価の在り方や評価の活用法を検討する。			
	後期		2.7					3.4		
家庭学習の定着	①教科の課題や生徒の実態をもとに、学力向上のため、学年として組織的（朝の打ち合わせや学年部会）、具体的（週末課題や補充学習）に取り組み、学力を1ポイント上げる。	前期	2.9	3.1	3.3	○週末課題や教科の課題、長期休業中の課題等を出すことで、学習に取り組みさせることができた。 ●一部、忘れ物が多い生徒がおり、個別の指導が必要であった。	◎教科や学年で十分に打合せをして、よりよい指導に取り組む。			
		後期	3.1					3.4		

No.1

大項目	中項目	小項目と具体的方策		教師	保護者	生徒	成果と課題	改善点			
豊かな心	道徳教育の推進	①道徳の時間の指導をローテーションで実施し、指導方法の充実を図る。	前期	3.0	/	/	○計画に沿って、ローテーションで授業を実践することができた。 ●教師間での価値項目や使用する教材等の細かい確認が必要である。	◎教材研究をさらに充実させ、生徒の道徳性を高める。			
			後期	3.1							
		②生徒の人間性を高めるために、人権・同和教育担当および学年の道徳担当が中心となって学年部会等で提案する。	前期	2.9			/		/	○学年部会で、指導計画を提案することができた。 ●道徳や人権学習で学んだことが日常生活に生かしきれていない。	◎生徒の体験をもとにした道徳の授業づくりをする。
			後期	2.7							
	人権・同和教育の推進	①「わたしたちの道徳」「かがやき」「あおぞら」などを効果的に活用する。	前期	1.9	/	/	●「わたしたちの道徳」「かがやき」「あおぞら」の活用が不十分であった。	◎年間計画を見直し、重点的、効果的に活用できるようにする。			
			後期	1.9							
		②生徒の人権意識を高める学級づくり・授業づくりを行う。	前期	2.5			/		/	○学校の教育活動すべての場面で、人権意識を高める指導に努めた。 ●人権意識・人権感覚がなかなか育たない生徒が一部、見受けられる。	◎人権意識を高めるため、日常の教育活動、道徳、特設人権学習など、学年・学校で組織的に取り組む。
			後期	2.6							
	豊かな体験活動の充実	①高校体験等を通して、望ましい進路観を育てる。	前期	2.4	3.2	3.3	○3年生は「高校体験」や「高校の先生の話」を聞くことで、体験学習をすることができた。 ●1,2年生は十分にはできなかった。	◎体験活動を重視した、指導計画を作成する。			
			後期	2.6	3.2	3.3					
		②感動ある学校行事の創造のための学年・学級の集団づくりを行う。	前期	2.8	3.3	3.3	○日常の集団づくりを、体育会や文化発表会等の行事にいかすことができた。		◎よりよい集団づくりを継続して取り組む。		
			後期	2.8	3.3	3.3					
生徒指導の充実	①毎週の生徒指導部会や学年部会で生徒の情報交換をきめ細かく行い、すばやく対策を講じる。	前期	3.0	/	/	○生徒指導部会では、情報交換を綿密にすることができた。 ●生徒指導部会の内容を学年に伝えることや、学年内で共通認識・共通実践を図ることが不十分であった。	◎全職員である程度の共通理解・共通実践ができるよう、十分な打合せを行う。				
		後期	3.0								
	②S C研修会やいじめの早期発見マニュアルの活用により、いじめを許さない学級集団をつくる。	前期	2.4			3.3	3.3	○日頃からいじめを許さない学級集団づくりに努めた。 ●一部、意識が変わらない生徒がいた。	◎いじめをなくすためのよりよい指導方法の工夫改善をはかる。		
		後期	2.4			3.3	3.3				
	③日常的な生徒との面談、生活ノート、生徒の生活実態調査等を活用し、教育相談の充実を図る。	前期	3.3			3.2	3.3	○色々な取り組みを通して、生徒との人間関係を深めることができた。	◎継続して取り組み、生徒の変化を見逃さない教師集団をつくる。		
		後期	3.3			3.2	3.3				
	④生徒の安全管理を中心とした危機対応に迅速にかつ組織的に取り組む。	前期	3.0			/	/	○日常からある程度の危機管理意識を持つことができた。 ●体調不良の生徒が現れた時の職員間の連絡が不十分であった。	◎定期的に、危機管理の啓発に努める。		
		後期	3.1								
	⑤生徒会を中心とした挨拶運動を通して、挨拶の徹底を図る。肯定的評価で85%を目指す。	前期	2.2			3.3	3.3	○全職員で、挨拶の励行に努めた。 ●挨拶の声が小さかったり、挨拶が消去的であったりした。	◎教師や生徒会が率先して挨拶をする。		
		後期	2.1			3.3	3.3				

大項目	中項目	小項目と具体的方策		教師	保護者	生徒	成果と課題	改善点
郷土愛	国際理解教育を柱とした郷土愛の育成	①総合的な学習の時間（キャリア教育）は学年部会で活動の目的を共通理解し、組織的に取り組む。	前期	3.2			○3年は学年部会で審議をし、進路について組織的に取り組んだ。 ●1,2年生は、計画が不十分であった。	◎3年間を見通し、系統的・発展的なキャリア教育推進計画を作成する。
			後期	3.0				
		②大韓民国の百済中学校との交流等を組織的に行い、国際理解教育を推進する。 (今年度は中止)	前期				●今年度も交流は中止となった。	◎実施可能な日常的活動(メール等)を行う。 ◎留学生を学校に招き、交流する。
			後期					
		③総合的な学習（文化理解科）の時間において国際理解教育の推進を図る。	前期	3.1	3.3	3.4	○2,3年生は、文化理解科の活動に熱心に取り組む、国際理解教育を推進することができた。	◎外部講師の方と連携をとりながら、今後も継続して取り組む。
			後期	2.9	3.3	3.4		
		④体験活動を重視したキャリア教育の推進を図る。	前期	2.0			●1,2年生は、キャリア教育が不十分であった。	◎キャリア教育全体計画を見直し、効果的なキャリア教育ができるようにする。
			後期	1.8				
		⑤おおさの川の清掃活動等を通して郷土愛の育成を図る。	前期	2.8	3.2	3.4	○10月は120名程度の参加があった。地域へ貢献する意識が高まった。	◎郷土愛を育成する活動を今後も幅広く実践していく。
			後期	2.6	3.2	3.4		
環境教育	清掃活動の充実	①時間いっぱい清掃活動を行う。	前期	2.7		3.3	●無言清掃の徹底が不十分であった。	◎生徒会活動と連動して、無言清掃に取り組ませる。
			後期	2.6				
	教室環境、校内掲示板の充実	①生徒の作品掲示等、学級や学年、校内掲示の充実に努める。	前期	2.9			○校内掲示物を充実させることができた。 ●掲示後しばらくして、掲示がはがれたり、やぶれたりしていた。	◎掲示物作りを継続させるとともに、環境を保てるようにする。 ◎生徒会活動との連動を考える。
			後期	3.0				
	校舎内外の安全点検	①毎学期の安全点検の実施等により、生徒の学習環境の充実に努める。	前期	2.8			○毎学期末に安全点検を実施した。 ●予算の関係もあり、修理宮繕ができていないところがある。	◎全職員が常に安全に配慮できるよう、定期的に啓発する。
			後期	2.7				
		②清掃区域を中心とした施設の安全管理に日常的に取り組む。	前期	2.9			○日頃から安全管理に努めることができた。	◎継続して取り組む。
			後期	3.0				
	安全教育の推進	①避難訓練を実施し、危機管理意識を高める。	前期	2.5			○避難訓練を年2回、実施することができた。 ●実施時期や消防署員に来てもらうことなどが課題である。	◎実施時期や方法、外部からの講師等、検討する。
			後期	2.7				
②薬物乱用防止教育の充実に努める。		前期				○外部講師を招聘し、講話をしていただき、大変、効果的であった。 ●時期や受講学年の検討が必要である。	◎実施時期や方法、どのような講師を招聘するか等、検討する。	
後期								

大項目	中項目	小項目と具体的方策	教師	保護者	生徒	成果と課題	改善点			
組織運営	主任・主事等の学校経営参画意識の高揚	①毎朝の主任会において、学年の状況報告を行い、日々の対応の充実を図る。	前期	3.3	/	/	○主任会においては、十分な連絡・調整をすることができた。	◎今後も継続していく。		
			後期	3.1						
		②定期的に各分掌の進捗状況を主任、主事に報告する。	前期	3.0					●一部の教師に仕事が偏ったり、学年間の連携がとれなかったりした。	◎主任、主事が積極的にとりまとめをする。
			後期	2.8						
	校務分掌の機能化	①定期的な分掌部会で学校評価結果をもとにしたPDCAサイクルによる組織的な取り組みを行う。	前期	2.7			○学期末には、十分に分掌の取り組みをまとめ、評価をすることができた。	◎学期末以外にも、必要に応じて分掌内で連携がとれるよう、意識付けや時間の確保等、工夫をする。		
			後期	2.7						
	学年部会の充実	①学年部会で、学年の課題に対する具体的な対応を明確にし、実践する。	前期	3.3			○学年部会において、指導方法、指導内容等、話し合いをすることができた。 ●事後指導になることが、時々あった。	◎年間を見通して、指導することができようにする。		
			後期	3.2						
②各学年主任は各学級の学級経営状況の把握と適切な指導・助言を行う。		前期	3.3	○学年主任がある程度、指導・助言を行うことができた。 ●実態把握に努めたが、学年主任が適切に指導できないこともあった。	◎今後も継続して取り組む。					
		後期	3.0							
地域保護者との連携	保護者との信頼関係の確立	①気になる生徒の状況等について、家庭訪問等を行い、きめ細やかな情報提供を行う。	前期	3.1	/	/	○電話連絡や家庭訪問をすることで、家庭との連携を密にとることができた。 ●連絡がとりにくい家庭や、連絡しても返事の来ない家庭があった。	◎継続的に、粘り強く、家庭との連絡を行っていく。		
			後期	3.1						
	学校だより等による積極的な情報発信	①学校だより学年・学級だより、インターネット等を通して、地域・保護者に積極的に情報発信する。	前期	2.8	3.3	/	○ある程度、たより等を発行することができた。	◎定期的、継続的に、情報発信できるようにする。 ◎よりよい情報発信の方法を模索する。		
			後期	2.8	3.3					
	PTAとの連携	①PTAと連携し、学級懇談会や自治会長との懇談会、地域懇談会の充実を図る。	前期	2.8	3.2	/	○諸懇談会を実施することができた。	◎より良い懇談会が実施できるよう、内容等の検討をする。		
			後期	3.0	3.2					
		②あいさつ運動や登校指導、校区パトロール等の取り組みを通して、PTAと連携して生徒の健全育成に努める。	前期	2.6	3.3	/	○校区パトロールを定期的実施することができた。 ●校区パトロールは、天候不良による中止が2回あった。 ●あいさつ運動、登校指導は効果が見えにくい。	◎よりよいPTA活動を模索する。		
			後期	2.8	3.3					
③花いっぱい運動、資源回収、バザーなどの活動を通して、保護者との連携を深める。	前期	2.4	3.3	/	○花いっぱい運動をPTAにいただき、校内環境が整った。 ●体育館改修工事及び30周年事業に伴い、バザーが中止となった。	◎27年度はバザーを実施する。また、よりよいPTA活動を模索する必要がある。				
	後期	2.4	3.3							

評価基準 4大変できた 3概ねできた 2 あまりできなかった 1 できなかった

※ 標準値を 2.5 として換算しています。